

2024年を振り返ると…

12日(木)、清水寺で今年の漢字が発表されました。今年は元日の地震と9月の連休中の大雨被害にあった能登半島、夏に行われたパリオリンピックでの日本選手の大活躍、大谷選手の結婚と「50-50」等の予想にたがわぬ大活躍等が注目されましたが、結果としては「金」(3年ぶり5回目)が選ばれました。選ばれた理由として、パリオリンピックやパラリンピックに出場したアスリートが数多くの金メダルを獲得したこと、大谷翔平選手が3回目のMVPを獲得するなど値千金の活躍だったこと、「佐渡島の金山」が世界文化遺産に登録されたことなど、光をあらわす「金」(キン)と、政治の裏金問題や金目当ての闇バイト強盗事件、止まらない物価高騰など、影をあらわす「金(かね)」の2つの意味があるということです。先日の全校朝礼で、子どもたちに予想してもらいました。予想は当たったでしょうか？



本日の終業式では、そのようなことを振り返りながら、次のような話をしました。

もし私が今年一年を振り返って、漢字を一文字選ぶなら「助」を選びます。理由は、普段から学校を経営していくうえで非常に多くの人に助けてもらっています。(省略)そして、何よりも強く感じるのは、今年は2名の先生が休みをとられた代わりに、3名の先生に来てもらうことになりました。様々なご事情があるなか、本校での仕事を引き受けてくださったことには感謝の言葉が尽きません。多くの学校で代替りの先生が見つからずに苦勞されている話を聞くと、余計に有難く思います。

その言葉に関連して、陶芸家の北川八郎さんの「返謝で感謝が完成する」という話を紹介します。北川さんは「感謝はもらってありがたいと思うだけではいけません。ありがたいという気持ちで人に同じ喜びを与えて初めて感謝が完成するのです。人から与えられるばかりだと、もらうのに慣れてしまい返せなくなってしまいます。優しさや知恵や助けをいただいたら必ず返すことが大事です。これを私は『返謝で感謝が完成する』と言っています。もちろん、感謝を返すといっても、それに見合うだけの物やお金を渡せと言うものではありません。大切なのは、多くの人のために自分の人生を費やすこと、つまり時間を与えることです。人を手助けすることもそうです。笑顔と優しい言葉で感謝の思いを伝えるだけでもいい。その人にできる範囲のことを、善意をもって精一杯行えばよいと思います。感謝は、その人の徳積みとなります。人知れず下座に徹し、黙々と徳を積み上げることは、確かに自己犠牲を伴うことですが、それが苦になることはありません。自分の人生の時を削り、他人のために何かをお返しする喜びが体得できてこそ、『ありがとう』という本当の繁栄に結びつくのです。」

「人から何かをしてもらったり、助けてもらったりしたら、必ずお礼を言いなさい」これは私の両親の教えです。助けてもらうだけでなく、それを誰かのために自分の時間を使って、返すことができたらいいいと思います。そんな生き方を理想として、少しずつ近づいていけるといいですね。

明日から14日間の冬休みに入ります。年末年始もあり、家で過ごす時間が長くなると思いますが、どうぞよろしくお願いたします。皆さん、良いお年を！

確かな学力

タブレットを活用している授業を探してみました。英語科が1・2年生の授業で、タブレットに発音を録音し、それをAIに診断してもらった活動を取り入れていました。また、2年生の国語科で、百人一首から自分で和歌を選び、そのレポートをタブレットを使って作成していました。「個別最適な学び」に少し近づいています。



豊かな心

12/4(水)の5校時に人権集会がありました。クラスごとに学級人権宣言と行動目標の現状と課題、そしてこれから取り組むことの発表がありました。続いて、大島青松園を訪問した子どもたちが、現地で学び、考えてきたことを発表しました。その後、6人組グループで意見交流し、考えを深めました。学級での振り返りやハンセン病の学習を通して、人権について考える良い機会になりました。

